

社史コレクションの利用に直結する催事・広報の展開

～社史の活用法や可能性を伝えるために～



神奈川県立川崎図書館（神奈川県川崎市） <http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>

基本データ（数値はH25年現在）

住所	川崎市川崎区富士見2-1-4
電話番号	044-233-4537
人口（図書館が所在する都道府県）	908万人
職員数（うち有資格者数）	49人（37人）
蔵書数	250,745冊
登録者数	8,272人
年間貸出冊数（H24）	47,838冊

目的・趣旨

社史の利用の促進を図るため、資料に直結した催事・広報を行っている。社史がどのような資料で、どんな活用法や魅力があるのかを積極的に情報発信している。

取組概要

当館では、全国屈指の約1万6千冊の社史コレクションを所蔵し、社史室でその多くを開架し、直接、手に取って閲覧できる。

業種ごとに配架しているので、使い勝手もよく、県内に限らず、遠方から調査に来館される方も見られる。

しかし、社史は市販されている身近な資料ではない。また、特色ある資料であるがゆえに、「知る人ぞ知る宝物」となりかねない。

そこで当館では、利用の促進につながる次のような取組を行っている。



公開書架を利用できる社史室

特徴

いずれも社史という資料そのものを扱っているのが特徴。社史の周知・利用・活用に直結する効果を見込める。

①講演会「社史ができるまで」

平成24年度から始め、平成25年11月までに8回を開催。企業の編纂担当者等が、社史ができるまでの経緯を、会社の歴史やエピソードを交えて話す内容。これまで取り上げた社史は『日本水産百年史』『東京書籍百年史』など。主な参加者は、業種や企業・経営史に関心のある方、社史編纂の担当者などであり、県外からの参加者も多い。新聞社からも取材を受けている。

②社史室広報紙「社楽」

平成24年1月からほぼ月に1度刊行。A4両面で、WEBでも全文を公開。これまで、ユニークな装丁、収集の方法、検索法、レファレンス事例などを取り上げた。

③「神奈川新聞」への連載

平成23年から25年にかけて計39回、社史を題材に連載をした。企業キャラクター、広告あれこれ、食をめぐる話など、一般の読者層に社史の楽しさが伝わるよう心掛けた。



第6回『花王の120年』は約80名の参加者で賑わった。

取組の成果と今後について

講演の参加者や利用者から「社史を寄贈したい」という申し出も多数あり、コレクションの充実につながる好循環を生んでいる。今後とも積極的な取組を続け、近代産業史の財産ともいえる社史コレクションの魅力を伝え、日本の社史文化の一翼を担っていきたい。